

2019 年 06 月 25 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【年初の値動きを思い起こす】

今年（2019 年）の年初を思い起こしてみると、年初早々から、大荒れのドル／円相場だった。

1 月 2 日のニューヨーク市場のドル／円のクローズ（終値）は、108 円台後半（108.85・90 水準）。

1 月 2 日のニューヨーク市場が終わって、シドニー市場の時間（東京時間の朝 8：00 前後）に、ドル／円が大きく急落を始めた。

108.50 を割り込むと、大口のストップ・ロス（損切り注文）があった様子で、下落が加速し、さらに、108.00 を割り込んだ水準にも、大口のストップ・ロス（損切り注文）があった様子。

ドル／円が、大きく急落した影響で、クロス円も大幅に急落し、それぞれのクロス円にあったストップ・ロス（損切り注文）をヒットした。

市場参加者が、極端に少ない中、「損切り」が「損切り」を呼ぶ展開となり、ドル／円は、104 円台を付けている。

相場が加速した原因に、A I などを利用したプログラム売買が、いっせいに「ドル売り円買い」を行ったことも挙げられるのだろう。

しかし、この年初の時は、安値 104 円台から、大きく反発した。

振り返ってみれば、4 月に、ドル／円は、112 円台半ばまでリバウンドしている。

そして、112 円台を戻り高値に、ドル／円は、再び、大きく下落を始めた。

今日（6 月 25 日）、ドル／円は、107 円を割り込み、106 円台を付けて、安値を更新している。

+++++

直近のドル／円の下落は、ゴールデンウィーク中の 5 月 5 日（日曜日）に、トランプ米大統領が、中国製品に対する関税引き上げを表明したことが、きっかけになっている。

米中の貿易交渉の進捗が遅いことに不満を示し、5 月 10 日から、2000 億ドル相当の中国製品に対する関税を、10%から 25%に引き上げると表明した。

+++++

トランプ大統領が発表した追加関税で、米中貿易摩擦の激化を材料に、ゴールデンウィーク最終日（5月6日月曜日）のドル／円は、111.00 アラウンドに「窓（Gap）」を空けて急落した。

この急落をきっかけに、今のところ、約4円ほどの「ドル安円高」が進んでいる。

+++++

振り返って、2019年1月のドル／円の月足チャートの形状を見ると、「下ヒゲ」が長いので、下値（安値）からの反発が強いことを示しています。

しかし、年初の値動きで、104円台にまで大きく急落したことは事実である、と考えます。

上記の通りに、年初（2019年1月3日、東京時間早朝）に、104円台に大きく急落したことを思い出しています。

ドル／円が、年初に大きく急落したことには、原因・理由があるはずだ、と考えるからです。

今は6月であり、年初から随分と時間が経過しましたが、改めて、現状のマーケット（ドル円市場）で、109円、108円を割り込み、107円も割り込んだので、年初に起こった値動きを、なぞるような展開になる可能性もあり得る、と考えます。

つまり、年初（2019年1月3日、東京時間早朝）の値動きが、デジャブ現象のように思えるような展開になる可能性があり得る、と危機感を持って相場に臨んでいます。

+++++

（2019年06月25日東京時間14：45記述）